

---

# 異邦のよろず屋さん

いたちごっこ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

異邦のよろず屋さん

### 【Nコード】

N3200Z

### 【作者名】

いたちごっこ

### 【あらすじ】

神様宝くじに見事？当選し異世界トリップ権を獲得し、すっごい（チート）能力を貰い異世界で色々な物を作っていくお話です。

くプロローグ

「オメデトウゴザイマス！」

「えー貴方は神様主催裏ジャンボ宝くじ（異世界トリップ権）に当選しましたあ〜。」

「パチパチ〜w」

「は・・・？ 何言ってるの？」

「んー、まあそーゆう反応になりますよね。」

「とりあえず説明しますね。」

「その前にと、えっと・・・お名前は嘉瀬慎吾かせじんごさんで合っていますか？」

「ああ、合っている。」

「では詳しい説明を・・・と言いたい所ですが、面倒なのではしよらせてもらいますね^^」

「おいおい！ますね^^、じゃないだろ。」

「だって面倒なんだもん。」

「じゃあ簡単に言いますね、嘉瀬さんが買ったジャンボ宝くじが100年周期に行っている神様宝くじと連動してまして、とは言っても人間の方は知りませんよ、それで見事当選されたという感じですよ。」

「それで？」

「どうされますか？」

「異世界トリップ権を行使されます？それとも放棄されますか？」

「それを決める前に聞きたいことがあるんだがいいかな？」

「はい、なんですかあ？」

「異世界に行くにあたって特典はあるのかな？あれば行きたいけど・・・。」

「たとえば、身体能力が格段に上がるとか、特殊能力が使えるようになったりするとかはないの？」

「あー、それを言ってませんでしたね。」

「特典はですね・・・、嘉瀬さんの望む能力です！ おお、神様太っ腹あw」

「何か希望の能力がありますか？」

「はい！ ありますううう！」

「えつとですね、xxxつて感じの能力が欲しいです。」

「ほうほうxxxな能力ねえ、他には無いの？」

「後は行くxxxも欲しいな、行ってxxxじゃ話にならないし（笑）。」

「以上でいいですか？ というか異世界トリップ権行使という事でいいですね。」

「はい、よろしく願います。」

「少し待ってくださいね、神様に報告しますので」

「・・・」

「・・・」

「・・・」

「・・・」

「・・・」

「・・・」

「お待たせしました、全てOK出ました。すぐに出発されますか？」

言葉には出さずにくくりと頷いた。

「では、行ってらっしゃいませえ〜。」

## くプロローグく（後書き）

仕事の昼休みや移動時にちょこちょこ書いた物なのでサラッと流してください。

誤字・脱字・文がおかしい所が多々あると思いますが冷たい眼で見  
てやってくださいw

おかしい所あれば連絡いただければ嬉しいです。

（頑張つて続けようかな？とか考えていますが、忙しいので週1  
2でUPできれば・・・）

第01話 大地を踏んでからの回想・・・

皆さんいかがお過ごしでしたか？

神様と別れてから早2週間が経ちました。

到着してから今日までのことを思い出すと・・・涙が止まりませ  
ん。

・ ・ ・ ・ ・

こちらの世界に来た感動に浸っている時に背後からいや々な気配と動物の鳴き声が聞こえてきました。赤黒い体毛に額には白く大きな角が生えており、口の鋭い犬歯を持った狼さん？が俺を狙っていました・・・。

はい、回れ右して全力で走り逃げました。

狼さん？から逃げ切って、ひと休みしている時でした、無数の人影が俺の方に近づいてきてその人たちの手を見ると、短剣やらロングソード？的な物を持った盗賊さん達が今にも襲い掛かりそうな感じでした・・・。

はい、また回れ右して全力で走り逃げました。

盗賊さん達から逃げ切つて、ひと休みしている時でした、急に空が黒くなってきて雷が鳴り、大雨になってきました・・・。

はい、またまた回れ右して全力で走り雨宿りできる所を探しました。

そんな事を繰り返して繰り返して時間が経っていきました。

・ ・ ・ ・ ・

今はこの異世界唯一のグローシアス大陸の首都グローシユの商業区の外れの外れにある2DKの平屋・庭付きに住んでいます。（ちなみにこのお家は神様にイタダキマシタ・・・神様バンザイ）

とまあこれまでを簡単に説明していると、やっと家の片付けが終わりました。

「はぁー終わった」



明日から製作に移れるかなあっと思いつながら・・・。

第01話 大地を踏んでからの回想・・・（後書き）

かなり文章が入り乱れております・・・がお許しください。

## 第02話 採取と鑑定

「薬草・毒草とつたどお〜！」

・  
・  
・

なーんて事を言いながら首都グローシユ近辺で素材集めをやっております。

素材集めに便利なのが神様に貰った能力の一つ『鑑定』！！！！  
素材や商品を手に取り鑑定と思うとそれの特徴などが分かり、さらに地球に近いものに変換説明してくれるのが嬉しい。ちなみに薬草と毒草はというと・・・

【薬草】 《説明》グローシアス大陸全域で自生している植物で見た目は雑草みただがいい香りがする

《効果》食べることで体力微回復、採取して1週間前後で効果が少なくなっていく、2週間経過すると完全に効果を失う&お腹を壊す

【毒草】 《説明》グローシアス大陸全域で自生している植物で薬草に似ており赤いスジが入っているのが特徴、慌てると薬草と間違えるので注意

《効果》 食べることで毒状態になる、死ぬことは無いが2〜3日は寝込む

こんな感じで分かります。 うーん便利便利。

おっと、採取の続き続きと再開しようとした時に、少し離れたところに森が見えたので足を運んでみる事にしました。

「何かいい物あるかな」

俺は鼻歌を歌いながら森へ向かっている途中で、横を流れている川の中に光っている物を見つけた。川は浅く膝下ぐらいまでしか水がこなさそうだったので期待を膨らませ川の中へ入っていった。

「んー、何かな・・・？ 石・・・？」

と思いつながらも拾い上げた時でした。

若干青い色が入った石で、近くで見ただけでは気に掛けるものではないがそれを手に取ると魔力の流れを感じ取り、すぐに『鑑定』・・・

【魔流石・水】（まりゆうせき） 《説明》 見た目は普通の石だが、この世界に存在する魔属性を吸収・貯蓄することが出来る。但し、吸収できる魔属性は近くで発生している1種類のみ。これは水の中にあつたので水属性が貯蓄されている。

《効果》 武具などに属性

を付与したり、魔道具の材料としても使うことができる。但し、扱っ方には高い技術と知識が必要。

「おお！！！」

『鑑定』の後思わず声のでてしまった。

「これだよ、こつゆづの待つてんだって。」

と、感動しながら水の中に残っている【魔流石・水】を拾っていた。全部で10個ゲット、何に使おうかなと考えながら、ホクホクした顔で再び森へ向かいました。

歩くこと10分少し、森に到着すると早速果物を見つけました。

「うーん、感じていけば結構な数の採取が出来そうだし『鑑定』は後でまとめてやるかな。」

自分に言いながら森の中に入って行きました。森は思った以上に深く、緑が豊かで小動物が木の实や果物を食べている所が目についた。その横に実っている果物をもぎ取り、服で簡単に拭き一齧り・

「美味しい！」

噛んだ所から果実の甘い汁が流れ出し、服に落ちるのも気にせず夢中で食べていた。

(ベトベトになった服は帰りに川でサツと洗いました、ふいーちかれた)

採取を再開して1時間ほどで岩陰にあったキノコ2種、木に出来ていた蜂の巣3個、倒木をゲットし『鑑定』を。

【りんご】《説明》グロアシアス大陸全域でとれる果物で、特にグロア産は甘みが強く人気が高い

《効果》特になし

【グロアキノコ】《説明》グロアの森に自生するキノコで、見た目はシイタケに似ており色々な料理に合う

《効果》特になし

【グロア毒キノコ】《説明》グロアの森に自生するキノコで、シイタケに似ているが傘の部分に黒い斑点がある

《効果》食べることで毒状態になる、死ぬことは無いが毒草よりも毒素が強く1週間は寝込む

【グロアハチミツ】《説明》グロアの森に生息する蜂が作った巣にある甘い蜜

《効果》疲労回復

【ローヤルゼリー】《説明》グロア蜂が花粉や蜂蜜を食べ、体内で分解・合成し分泌した物質で数が少なくかなり貴重。多くの栄養素を含む

《効果》体力小回復・疲労小回復

【グロア木】《説明》グロア森に自生する木で、家具などに使われることが多い

《効果》特になし

「まあ採取初日としちゃ上々かな、そろそろ日が落ちそうだし・・・  
・てか重いから帰ろっと」

採取を終わり、重い荷物を引きずりながら町へ帰りました。

荷物運ぶ為の物考えないとなあとつくづく感じた俺でした。

第02話 採取と鑑定（後書き）

投稿ポチっとなあ・・・。

読んでくれる方がいたとは・・・驚き&amp;mp・感謝です（ペロリ



## 第03話 市場調査

目が覚めて身体を起こすと

「ああー、身体痛えー」

近場で採取するつもりだったのに、森が見えたからって行くんじやなかったかな、けどまあ色々手に入ったからよしとするかな。

素材もちよつと集まったから、何か作ってみたいんだけど・・・何がいいかな？というかさろそろ商売しないと貰ってたお金がやばいんだよな。武具は素材ないから駄目だから道具になるけど、どんな物が需要あるんだろう？ うーんと考えてみたがこちらの事は分からないので・・・。

「よし、今日は市場調査に行くことにしよう」

思ったらすぐ行動！

「ぐるぐるるる〜／／／」

・  
・  
・

「商業区行く前にお腹に餌入れてあげないと」

お腹がすいては市場調査ができぬ！と言う事で行きつけの《ロック亭》に行くことに。

こっちにきてからずっとお世話になってるんだよな。

カラン カラン

ドアを開けると色々な食材やスパイスなどのいい香りが嗅覚を刺激され、涎が出そうになってしまい慌てて口を閉じるのはいつもの事だ。この店から離れることは出来そうにないなと思いつながらカウンター席に座った。

「おやつさん、おすすめ2人前よろしくー」

「おお！シンゴか、ちょっと待ってなすぐ作るからよ」

「よろしくー」

今日のおすすめが何かなっと期待しながら待つこと10分少々

「お待ち！今日は野ウサギのグリル・季節野菜のサラダ・特製スープ・パンだ」

「残すなよ」

「おやつさん、そんなことするわけないじゃないですか」

野ウサギのグリルは焦げ目がいい感じについて鼻を刺激してくるスパイシーな香りがしており、季節野菜のサラダは色とりどりの野菜が目を楽しませてくれ、特製スープは語るまでも無く《ロック亭》最高のスープだ。

手を合わせて 「頂きますー！」

もぐもぐ・・・  
ずずずー・・・  
もぐもぐ・・・  
ずずずー・・・

「あーごちそうさまでした!」

「おやっさんの飯はいつ食べても最高です」

「いつ見てもいい食いつぶりだ」

「じゃ、おやっさん代金ここに置いときますね」

カウンターに100クローレ置き席を立った。

「おう、また来いよ!」

カラン カラン

「さてと腹も一杯になったし行くとするか」

俺が商業区へ向かっている間に簡単にこの世界と街を説明するぜ・  
・っつて前にも言ったかもしれないが気にしないでくれ。この世界にはグローシアス大陸一つしかなく、その中心地が首都グローシユだ。(人によつては王都つて言うらしい、どつちでもいいけどな)

まずは、この世界には7種族存する、人族・エルフ族・ダークエルフ族・妖精族・獣族・竜族・魔族だ。皆もだいたいどんなのかわかっていると思うから説明は省かせてもらうぜ。

次は街の事だ、首都グローシユは6つの区域、王城区・居住区・学

問区・商業区・職人区・自由区に分かれている。

《王城区》はこの大陸を治める王がいる所だな、まあ俺には縁の無い所だから気にする必要は無いな。

《居住区》は文字どおりだ、あえて説明するなら人が住んで生活する所だな。そのまんまだな。

《学問区》は騎士・魔術養成学校・研究所があるな、学校は貴族しか入れなかつたみたいだが数年前から平民も入ることが出来るようになったみたいだ、ただ色々必要になるみたいだが。たとえばお金とか・・・やつぱりお金とか。

《商業区》は様々な商品を取り扱ってる所だな、例をあげると武器・服・食料・家具とかだな、他にもあるが・・・気になったら自分で見に行ってくれ。広いから迷子になるなよ。

《職人区》は商業区で売っている物を作っているところだな、中には卸さないで自分で売ってるやつもいるみたいだな・・・って俺のことだな。

《自由区》は他の区と違って基準が無いみたいだから、色々な店があるな。

後区域は、王城に近い方から上層・中層・下層って分かれてて、客層が変わってくるからな。上層は貴族様で下層は平民って感じた。中層はどっちも見かけるな。

それとギルドも説明しないとな学問区は魔術ギルド、商業区は商人ギルド、職人区は匠ギルド、自由区には冒険者ギルドがあるからな！忘れるなよ！

金のことを話してなかったな、ここグロースシアスでは金の単位はクローレ（KR）って言うからな。1KRは大体10円ぐらいだ。金の種類は半石貨1KR、石貨10KR、半銅貨100KR、銅貨1000KR、半銀貨10000KR、銀貨100000KR、半金貨1000000KR、金貨10000000KRとなつていて、平均1食50KR前後、宿は100KR辺りだな。

とりあえず以上だ、そろそろ商業区に着きそうだからな。じゃあな……

「到着〜！」

つてどの店がいいかな。辺りを見渡してみると人の出入りが多い店があつたのでそこに入って行つた。店内は所狭しと様々な商品が並んでおり、多くの客が商品を手にとって財布と相談しているようだった。その中の1人が白く丸い物を持っているが気になり、後ろから覗いてみた。

「何だろう？ うーん……ボール？」  
考えても分からないときは『鑑定』だ！

#### 【火薬玉】

《説明》丸めた火薬を紙で包んだ物、導火線に火をつけると爆発する  
《効果》中心から1m範囲に衝撃と火傷状態、中心から離れると効果も下がる

思った以上に弱いな、これだと威嚇ぐらいにしかならないんじゃないや

ないかな。

金額を見ると、1個200KR!!!

この効果でこれじゃ高くねえ？俺だったらもつといい物作る自信あるし・・・よし、心にメモメモっと。そういや火薬って幾らくらいするのか考えながら店の人に聞いてみた。

「すいませうん、火薬って置いてますか？」

「火薬ですか？あまり出回らないので無いですね。ごめんなさい」

「いえいえ、気にしないでください。有難うございました」

量が無いのである値段なのかぁー、とりあえずそれはおいといてと・・・回復系の道具って薬草しかないな、状態回復系も少ないしこの辺を充実させるかな。金額も異様に高いしね薬草150KR、毒消し草200R、麻痺消し草200KRだもんな。

まー道具はこんなもんでいいかな、次は武器屋だ！

・  
・  
・  
・

うーん、こつちも高いなー

鉄の剣800KR、鉄の槍1000KR、鉄の大剣1200KR  
って同じ素材でこの差は使っている量だろうな。おっと聞くの忘れ

るところだった。

「すいません、属性武器と違ってありますか？」

「うちに置いてるのはこれだけだね」

そう言いながら腹の出た貫禄のあるおっちゃんが持ってきたのは鞘は黒くそれから抜かれた刀身は少し赤く染まった片手剣だった。

『鑑定』！

【鉄火の剣】

《説明》鉄の剣に火属性を付与したもの

《効果》攻撃時に火属性ダメージ（微小）を追加・火傷状態にする

「ちなみにお幾らですか？」

「8000KRだよ」

「なかなかいいお値段ですね」

「そうだな、だが鉄の剣に付与されてるからまだ安いほうだぞ」

「鉄はまだ属性付与しやすいからな、これが鋼とかになると最低でも2倍はするぞ」

「それに火は基本属性だから、これが変化属性やその上の特殊属性になるともっと高くなるぞ」

色々説明をしてくれた武器屋のおっちゃんにお礼を言いながら帰路についた……。

早く武器を作る素材集めようと思う俺でした。

第03話 市場調査（後書き）

少し修正



## 第04話 道具作成

市場調査を終え、まずは回復・状態回復系の道具を作ることにした。とりあえず体力回復の道具は薬草をベースに作るんだけど、神様から貰っていた残りの能力を紹介しとこう。

まずは【造形魔法】だ！これは基となる物質に完成形を思い描きながら魔力を込めて形のある物を作る魔法だ。普通に錬金術でいいんじゃない？って思ったたろうけど、それじゃあれかなーって・・・と言っわけで【造形魔法】になったんだ。それと物を作る以外にも戦闘にも使えるから便利な能力だ。

それと【付与魔法】これは武具・道具なんかに特殊効果・能力をつけれる魔法だ。【造形魔法】あつたらいらんじゃねえ？と思うかも知れないが、【造形魔法】は特殊効果・能力を付ける事が出来ないからこの能力を貰ったわけだ。物を作る人間には最高の能力と俺は思うんだが・・・どうだろうか？

それとあと1つ能力を貰ったはずなんだが使うことが出来ないんだ、あの神様のパシリがミスったに決まってる！ そのうち使える事を祈ってるぜ神様！

...

まずは回復道具からなんだけど、道具屋では薬草しか見かけることができなかった。薬草しか出回って無いのかな？けど薬草じゃ効果は低いし、味もきついから変えたいし、長期保存が出来ないのでこの3点を改良してみようと思ってる。

それとこれで金額じゃ高いしね、他の店とに差が出来ちゃうけどその辺はご愛嬌ということ。

で、効果アップの方法は、魔力を込めれば少しは高くなるかな？と考え、保存はとりあえず乾燥させたらいいか？と言う感じで決まった。

あと作り方も2通りの作り方を試して見ようと思う、たいした違いじゃないがどんな効果になるか楽しみだ。

《簡単作成編》薬草を用意し、乾燥した1cmぐらいのキューブ形をイメージしながら魔力を込める！

### 【造形魔法・道具作成】クリエイション

シューイイイン……

「おし、完成。『鑑定』で確認確認つと」

### 【乾燥薬草】

《説明》薬草をキューブ形に圧縮し乾燥させたもの

《効果》体力小回復・1ヶ月は保存可能

「生のよりは少し効果良くなったな、特に保存が・・・味はどうかな？」

サクサク・・・ゴックン。

「苦味はだいぶましになったけど、もう少しかな」

まあこれは置いていて違う作り方でやってみるかな。

《応用作成編？》薬草を用意し、鍋に適当に切った薬草を入れ、ひたひたに水を入れてドロドロになるまで魔力を込めながら混ぜます。ドロドロになった薬草を乾燥した1cmのキューブ形をイメージして再び魔力を込める。

#### 【造形魔法・道具作成】

クリエイション

シューイイーン・・・

「『鑑定』つと」

#### 【乾燥薬草】

《説明》薬草をキューブ形に圧縮し乾燥させたもの

《効果》体力中回復・2ヶ月は保存可能

「おーいい感じに効果上がったな、魔力の込めた量で変わったのかな？後のほうが魔力込めてた時間は長かったしな」

簡単作成レシピで魔力を込める量を増やして作ってみると応用作成レシピと同じような効果になった。

「この感じだと、やっぱり魔力量っぽいな」

「大体込める量も分かったし薬草はこんなもんでいいか」

「けど【乾燥薬草】って名前は嫌だな、うーんそういや軍隊とかの野戦食って何って言うてたっけ・・・レーションだった？かな。ポーションと似てるけどまあいいか」

【乾燥薬草】改め【レーション】に決定！

（効果・保存の改良はできたが、味は金額が高くなるため一時断念。そのうち改良しようと思う俺でした）

よし次は状態回復だな、一番需要のありそうな毒消しから作るとしようって毒消し草無いし、毒草ならあるんだけど・・・おいおい。

仕方ないからこの前に採って来たの使って何か作っておくかな。

まずは【りんご】から・・・

「何にしよう？ジャムとリンゴチップでいいかな」

ジャムは普通に作ってみるかな、芯を取ったりんごを小さめに切って鍋に入れて焦げ付かないようにりんごの形が崩れるまで炒め煮にしてと・・・ん何で砂糖使わないのかって、そりゃあ持つてないし高いからだよ。別に使わなくてもこのりんごの甘みだけで十分と思っぜ。

おし、完成。

出来たたてのほんのりピンク色のりんごジャムを一口！！！！！！

「美味しい、甘酸っぱくていくらでも食べれそうだ」

冷ましたジャムに魔法コーティングを掛け瓶に入れて棚においた、  
だって早く片付ておかないと全部食べちゃいそうだったから。

次はリンゴチップだけど、オープンなんて無いし魔法でやるか、  
りんごは芯を取って薄めの一口大サイズに切って乾燥されてるのを  
イメージ。

### 【造形魔法・食材作成】

クリエイション

シュイイイン・・・

「便利だな」

【グローアキノコ】は庭に置いて天日干しで1週間ぐらいは放置  
つと。美味しくなれよ！

最後は【倒木】だけど、これは紙でも作るかな。パルプって木  
からできてたと思うんだけど・・・まあ試して見たらいいか。サ  
イズ的にB4ぐらいがいいかな、それぐらいの大きさをの紙をイメ  
ージ、イメージして魔力を込める！

シュイイイン・・・

「ちょっと色が悪いな、少し黄色っぽいぐらいだしいいか」

まとめて『鑑定』つと

【りんごジャム】

《説明》りんごを煮詰めて作ったもので甘酸っぱい

《効果》幸せになれるかも

【リンゴチップ】

《説明》りんごを食べやすい大きさに切り乾燥させた物でほんのりあまく食感がいい

《効果》幸せになれるかも

【干しグロアキノコ】

《説明》グロアキノコを1週間天日干しにしたもの

《効果》生よりも栄養価が高くなっており風味も増している

【魔法紙】

《説明》グロア木から作った紙で魔力を含み少し黄色っぽい

《効果》魔力を含んでいる為魔力に反応する

今回はこんな所かな、ハチミツとローヤルゼリーは加工するよりそのままの方が高く売れそうだから瓶に詰めて置いておこう。

道具を作ったけど、やっぱり武器を作りたい！作りたい！作りたい！心の中で叫びました。

次は武器を作るために鉱石を手に入れるぞ！と意気込む俺でした。

第05話 鉱石を求めて・・・

俺は今グローシユから10kmほど離れたクルナ鉱山に来ています。額に汗をかきながら木々に挟まれた山道をヒーヒー言いながら登っています。

「っ、疲れた。 やっぱり頼めば良かったかな？」

今更思っても仕方が無いのに・・・と自分自身に喋っていました。

こうなったのには朝まで戻ります。

・  
・  
・

窓から朝日が入り込み、その光を受けた目が覚めた俺は寝ていた身体を起こし大きく背伸びをした。

「ああああ、っあー」

身体をほぐしながら窓を開け、冷たいながらも気持ちいい風を身に受けた。

今日の予定は武具作成に必要な鉱石を手に入れることだが、どうやって入手しようか考えていた。1つは俺自身が鉱山に採取しに行く、もう1つは冒険者ギルドに頼んで取ってきてもらうかだが・・・どうしようかな？ギルドに頼んだら幾らぐらいするか聞きに行ってみよっか。

・ ・ ・ ・

「ギルドに到着！」

移動するのが早すぎるって？まー気にしない気にしない、そんな細かいこと気にしてちゃ髪の毛薄くなっちゃうぞ

冒険者ギルドは自由区の大通りの一番目立つ所に建っていて、外観は白を基調とした造りで4階建てとなっていた。入り口は人が5人は並んで通れそうな作りでそこを抜けると、ものすごい活気と熱気が伝わってきた。中には多くの冒険者らしき人達がいて、その対応にギルドスタッフらしき人たちが走り回っていた。

「うーん、活気がいいな。」



そんなことお思いながら、空いているカウンターに座った。

「すいませーん」

「はーい、お待たせしましたあー」

可愛らしい声が聞こえたので声が聞こえた方を見て見ると、腰まで届きそうな金色の髪に大きく印象的な瞳、均整の取れた身体の人族のお姉さんに釘付けになった。

「こっちの世界って美人さん多いな」

「当ギルドにお越し頂有難うございます、本日はどのような御用でしょうか？」

「えつと依頼のことでお聞きしたいことがあります・・・」

「鉱石採取をお願いした場合の料金ってどれくらいになるのかな  
って思ってます」

「採取の依頼になりますと、最低50KRからになります。」

「今回の鉱石採取となりますと、この辺りでは10kmほど離れたクルナ鉱山まで行くことになるので最低50KRは必要になると思います。さらに量が増えるにつれ金額も上がっていくのでハッ

キリした依頼料は・・・申し訳ありません ペコペコ」

「いえいえ、そんな事はないですよ。有難うございました」

うーん思ったより料金高いし距離もあるな。けどこれだったら自分で採りに行った方がいいかな。っと思っちゃって、食料などを買い・・・現在に至ります。

はううううううく

山道を登って行きようやく鉱山に入り口に着いた時には、疲れでその場に座り込んでしまいました。この状態では仕方がないので、少し休息をとる事にしました。

腰に着けていたポーチの中から昨日作った【リンゴチップ】をポリポリと頬張りながら、しばし至福の時間を味わった。

身体も心も落ち着いたところで、目的の鉱石採取を始めました。

「採るぞー！！！！！！」

最初は回りに落ちている石の中にいい物はないかを探すことにし

ました。だってその方が楽なんだもんw

それっぽい感じの石を見つけては『鑑定』を片っ端からかけているが、目当てのものは一つもありませんでした。やっぱり落ちてる中には無いか・・・やっぱり掘るしかないかあ。

さてどうする俺！掘るにもツルハシなんて物は持ってきてないぜ！（おいおい

じゃあどうするのかだって？決まってるじゃないかベイビー！魔法でちよっぴりぶっ放したらイインデスヨ。それでは・・・シンゴいつきまーす！

てか、魔法をぶっ放したら一気に崩れてくるのが恐れがるので止めてツルハシを作ることになります。石しか見当たらないので、数個集めてツルハシの形・強度をできるだけ硬くイメージ！

【造形・道具作成】  
クリエイション

シューイイン

すぐ壊れそうだから『硬化』も掛けてっと。

とりあえず『鑑定』

【石製ツルハシ】

《説明》石でできたツルハシ。『硬化』が掛かっており通常のツルハシより丈夫

- 《効果》全て石でできているため手が痛くなりやすい
- ・硬化 物にコーティングする事により強度を上げる

「では、始めますか」

カツカツカツ . . . . .  
ガラガラガラ . . . . .  
カツカツカツ . . . . .  
ガラガラガラ . . . . .  
カツカツカツ . . . . .  
ガラガラガラ . . . . .

掘り始めること数分 . . . . . 今までと違う黒っぽい色と赤っぽい色の鉱石が出てきた。

「これは期待できるかも」

期待を込めて『鑑定』

【鉄鉱石】

《説明》 クルナ鉱山で採れる鉱石、赤鉄鉱と磁鉄鉱の2種類がある  
《効果》 特になし

「や、やつと・・・ゲットおおおお！」

これで気を良くした俺は時間を忘れて、掘る掘る掘る！

カツカツカツ・・・  
ガラガラガラ・・・  
カツカツカツ・・・  
ガラガラガラ・・・  
カツカツカツ・・・  
ガラガラガラ・・・

「はあはあ、これぐらい採れば十分・・・すぎるかなw」

そんな事を言っている俺の後ろには、山積みになった鉱石があった。

夢中になって掘っていたので、日が落ちそうになっていた。今日はここで泊まることにした。さすがに山積みの鉱石を抱えて帰るなって出来ないもんね。

辺りに落ちている枯れ木を拾い、それに向かって燃える火をイメージ……

『造形・火よ』  
フォイア

すると、それは見る見る内にパチパチと燃え上がった。

おつと魔物除けに『結界』はつとかないと、焚き火周囲3mぐらいに対物理・魔法防御でいいかなつと……。

『造形・防御結界』  
シユッシ

「さてと、これで一応安全かな？」

これから山積みの鉱石を持って帰るべく為のアイテム作りを始めます。考えとしては指輪タイプで、性能としては……、検索機能と使用者権限有りの異空間倉庫かなあ。

とりあえずシンプルな指輪を……。

【造形・武器作成】  
クリエイション

シュイイイン

えーっと、指輪に検索機能、使用者指定、あと劣化防止も付与し  
とくかな。

【特殊能力付与】  
アディション

シュイイイン

「一応完成かな？」

『鑑定』

【異空間倉庫リング】

《説明》 異空間に物を収納することが出来る指輪

《効果》 異空間内は劣化防止が掛かっているなので食材を入れても腐  
ることは無い、物名と数量の検索が可能、使用者指定で俺だけが使  
用可能

「んー、いい感じ」

「掘った鉱石を『収納』して……それでは、今日はもう疲  
れたのでお休みなさい zzzz」

とまあ今日はこんな感じでした。

第05話 鉱石を求めて・・・(後書き)

駄文に磨きがかかって来ております



## 第06話 鍛冶師

朝一でクルナ鉱山から帰ってきて《ロック亭》で朝食を取り、現在我が家で一休みしている俺です。

「今回も良い採取だったあー」

「これでしばらくは製作に力入れられるかな」

異空間倉庫リングから出した鉱石の山を家の倉庫にセッセと移しながら、どんな物を作るのかなと思いついていました。やっぱり基本的な武器から属性武器、特殊効果武器（これは身に着けている・持っているだけでその恩恵を受けることができるもの《例 力上昇、魔力上昇など》）、特殊能力武器（特殊効果武器と似ているかもしれないが、これは発動を促すことでその恩恵を受けることができるもの《例 付与された能力の発動、召還など》）、あと刀は作っておきたいんだよね〜しばらく作ってなかったし……。

「今日はこの辺りかな、体力と時間的に余裕あれば防具の方も手を着けて見るかな」

「まずは基本の鉄の剣から」

長さや重さは以前見たのと同じぐらいで良いかな、ちょっと強度上げるために『硬化』でも入れてっと

【造形・クリエーション 武具作成】  
【特殊効果付与】アデプション

シユイイイン

うむ、『鑑定』

【鉄の長剣】

《説明》鉄鉱石から鍛えた長剣

《効果》『硬化』が付与されているので丈夫になっている

「うんうん、量産品としたら十分十分。あと鉄製武器も何種類か作っておくか、槍・大剣・長斧・短剣・鈍器・細剣辺りでいいかな。うちの武器に『硬化』は絶対に付与でいこつと」  
「んじゃー気にいくぞー！」

【造形・クリエーション 武具作成】  
【特殊効果付与】アデプション

シユイイイン

【鉄の槍】

《説明》 鉄鉱石から鍛えた槍

《効果》 『硬化』が付与されているので丈夫になっている

【鉄の大剣・鉄の長斧・鉄の短剣・鉄のメイス・鉄の細剣】（説明・効果ほぼ同じため省きます、槍も省いても良かったんだけどね）

「次は特殊効果武器をつくるとするか」

身に着けていると常時発動と考えると、能力補正ぐらいが妥当かな。武器に付与だから攻撃系能力の補正で一回やってみるとしよう。けど鉄武器に付与はちよつとなあゝ、ちよつとランク上げたいしな。うん、鉄鋼でも作るか。確か鉄に微量の炭素を添加すればよかったと思うんだけど。。。

「まあ失敗は成功の元！レッツチャレンジ」

【造形・素材作成】  
クリエーション

シユイイイン

『鑑定』

【鉄鋼】

《説明》 鉄に微量の炭素を含んだもの、鉄の持つ特製をさらに高めたもの

《効果》 特になし

「思ったより簡単にできたのでびっくりしている俺です。もうちょっとトラブルとか起こるかなーって思ったんだけど、何も無いのが一番！」

「先に量産作つとくかな、鉄の剣と同じような感でいつとくか」

【造形・武器作成】  
クリエイション  
アレイション

【特殊効果付与】

『鑑定』

【鋼の長剣】

《説明》 鉄鋼から鍛えた剣、鉄よりも強度・粘り・耐熱性に優れる  
《効果》 『硬化』が付与されているので丈夫になっている

「よしよし、んじゃ能力補正武器に取り掛かるかな」

攻撃系補正つてーと、筋力上昇・物理攻撃上昇・魔力上昇・魔法攻撃上昇・種族ダメージ上昇……付けるならこんなのかな。

人によって使う武器違つし、求める特殊効果も違つからこれらは注文を受けてから作るにしよう。どんな感じか例をあげると大剣・長斧は重量があつて振る速度に難点があるかなつてことで筋力上昇（筋力が上がることで武器の攻撃速度が速くなる）、長剣は大剣とかと比べると攻撃力が劣るかなつて事で物理攻撃上昇（武器の攻撃力が増加）、細剣・鈍器は魔法に長けている人が使うイメージがあるから魔力・魔法攻撃上昇（魔力総量・魔法攻撃力が増加）種族ダメージは好きな武器に（特定種族に対する攻撃ダメージの増加・種族例・獣系・竜系・悪魔系・昆虫系・巨人系・魔法生物系・不死系・人系・亜人系など）

次は・・・個人的に花形と思う属性武器だ！

「作るのはとりあえず基本属性の火・水・土・風の4種類で・・・」

火・大剣は大人の身長ぐらいの長さで、斬るといふより叩き潰すイメージで・水・細剣は細身で鋭く尖つたもので、切り裂いたり突くことをイメージ・土・長剣は80cmぐらいの長さに真っ直ぐの両刃で斬る事をイメージ・風・短剣は30〜40cmぐらいの長さで斬る・突く事をイメージ、それと、それぞれに特殊能力1つぐらい付与ところかな。

「では、さくつと試してみよう！」

【造形・武具作成】  
クリエーション

アレイション

【特殊効果付与】

アレイション

【特殊能力付与】

『鑑定』

### 【火の大鋼剣】

《説明》 鋼鉄から鍛えた大剣に火属性を付与したものの

《効果》 攻撃時に火属性ダメージ（小）・火傷状態にする・火球をイメージすると召還し飛ばすことが出来る

### 【水の鋼細剣】

《説明》 鋼鉄から鍛えた細剣に水属性を付与したものの

《効果》 攻撃時に水属性ダメージ（小）・水流状態にする・水矢をイメージすると召還し飛ばすことが出来る

### 【土の長鋼剣】

《説明》 鋼鉄から鍛えた長剣に土属性を付与したものの

《効果》 攻撃時に土属性ダメージ（小）・防御力上昇・土壁をイメージすると術者を中心に召還することが出来る。最大で中心から半径1・5mほど

### 【風の鋼短剣】

《説明》 鋼鉄から鍛えた短剣に風属性を付与したものの

《効果》 攻撃時に風属性ダメージ（小）素早さ上昇・風刃をイメージすると召還し飛ばすことが出来る

「完成」

「んー、店で見た物より大分強いけど．．．まいっか」

「防具も作りたかったんだけど、今日はさすがに疲れたんだよな  
！。作るとしても防具は体格も人によつて全然違つし注文制がいい  
かな。うんうん防具は完全注文制でいこつと」

．．．．．

そろそろ店を開きたいんだけど．．．、あれ店やるのつて許  
可とかいるのかな？やば、全然分からん！とゆーことで明日は商人  
ギルド行つてその辺を聞くことにしよう。

じゃお休み〜zzzzzz

第06話 鍛冶師（後書き）

明けましておめでとうございませう！



## 第07話 開店に向けて

えー、そろそろお店を開きたいのですが、営業するには何かしな  
いといけないのかぁ！ということで今日は商人ギルドの方へお邪魔  
しに行きたいと思います。

商人ギルドに行く前に、《ロツク亭》で朝食を取り、美味しそ  
うな匂いを漂わせている出店を見つけて食べ歩きをしながら美人さん  
を探し目の保養をしながら向かっていました。

そんな楽しい事をやっているとおつという間に目的地へ着いてし  
ました。もう少し癒されたかった……orz。

そんな感じで道端で落ち込んでいると、前にある建物からシヨ  
トカットの猫耳・尻尾で可愛いお姉さんが声を掛けてくれた。

「うづくまっちゃってどうしたのにゃ？」

聞こえてきた声の方に向けて見ると……。

「リアル猫耳！」「リアル猫尻尾！」「最高です！」

これを見る為にこっちに来たって言ってもいいと思います！  
ね、皆さん……はい！その通りです！

声に出しつつ頭でそんな事を考えていた俺でした……//  
/。

「いや、何でもないですよ。」

猫族？のお姉さんは一歩引いた感じでしたが、俺の事を気遣ってくれているようでした。

「本当かによ？」

「はい！（貴方を会えた事で吹っ飛びました！ ボソ）」

「えーとですね、この辺りに商人ギルドがあると思ってきたのですが」

「うん、今私が出てきた所がそうにや」

その建物を見て見ると、コンクリ打ちっ放しで無骨な感じで俺のイメージとは程遠いものだった。まあそんな事は置いて、さっさと用事をすませよつと。

「最近こちらに来て店を始めようと考えてまして、店を開く時に何か手続きとか必要なのかな？つと言う事で、その辺の事を詳しく教えてもらおうかなと思いましてえ……」

そう理由を説明しながらもお姉さんの”ぴよこぴよこ”動いている耳と尻尾に釘付けな俺でした。だって可愛いんだもん。

「なるほどにや、じゃあギルドに入って話すにや」

そんなやり取りをしながら猫族の尾お姉さんの後ろについていきました。

建物に入ると、一番に思ったのは他種族の多さだった。ぱつと見渡しただけで魔族以外の種族の人達がいるのが分かった。キヨロキヨロしているとお姉さんがこっちこっちと手招きしていたので、頭の中で”リアル招き猫キター”とか叫びながら向かって席についた。

「それでは商売を始めるにあたり必要な事を聞きに來たでいいか  
にゃ??」

「そうです」

「今回担当させて貰うミレットにゃ、よろしくにゃあ」

「よろしくお願いします」

「まず店を開くのに許可は基本的には必要ないにゃ」

「それじゃあ、勝手にやってもいいってことですか?」

「そうにゃ、ただしギルドに登録すると色々特典があるにゃ!」

「どんな特典ですか?」

「1つは、他の街に行く時に無料で小隊に加わることができるに  
ゃ」

「これはそんなに必要ないかな、他の街に行くなんて事無いだらう  
し。」

「2つめは、1つめと被ってるかもしれないが冒険者ギルドに

素材の採取・採取時の護衛を頼む金額も半分になるにや。」

これは微妙だな、採取は基本一人で行こうと考えてるしな。けど忙しくて手が回らない時ぐらいだしね、そんな時がくるかどうか分かんないし。

「3つめは、ギルドに登録している店から買う時に1割引になるにや。これは貴方が登録された場合貴方の店もその対象になるにや。その1割分はギルドに報告すると返金することになってるにや」

1割でも安くなると買う側にはいいな、報告すれば帰ってくるみたいだし……3つめはいいかも。

「4つめは、すごい物を作り出すとお金が貰えるにや！金額はその物によって変わるから分からないけどにや。けど、すごい物を作ってお金を貰う場合は、その物の製法をギルドに公開しないといけないにや」

「すごい物って、どんなのがあたるの？」

「今まででは、王都の上の人の目に止まる・既存の物を越える新しい物……そんな感じにや」

「以上の4つですにや」

4つめは、俺にとっちゃマイナスだな。というか製法の公開自体出来ないし。けど話を聞く限りそんなにメリット無いし非登録でいいかな。

「すいません色々考えたんですが、非登録でやる事にします」

「うーん、残念にや」

「それにやあ、これだけでもお願いするにや」

そういいながら分厚い台帳を出してきた。

「これは」

「この王都で営業している店全てが載っている台帳で、店の名前・場所・営業時間・販売商品など店の情報が載っているにや。来た人に店の紹介をするときにこれを使うにや。紹介するときは登録店からして行くから非登録の店は最期になるにや。」

「この登録はさつき説明した事は関係ないから是非登録して欲しいにや」

確かにちよーっとは店の宣伝になるかも知れないし。

「いいですよ」

「有難にや、これに記入よろしくにや」

そう言いながら準備していた用紙とペンをだしてきた。

「えーっと、名前はよろず屋・場所は商業区下層の門の横と・営業時間は．．．．．１０時～１７時頃と・商品は主に武器で道具なんかも少々と・休みは前日に店で知らせますと、こんなんでいいですか？」

「はい、十分にや」

「これで説明は終わりにや、他になにかあるかにや？」

「大丈夫です、また何かあったらその時はお願いしますねミレットさん」

「了解したにや」

「では、今日はこれで失礼しますね」

「また来るにやあ」

ミレットさんは笑顔で手を振りながら見送ってくれた。あんな可愛い笑顔みたらまた来たくなくなってしまっやろあと思いつながら家に帰った。

.....

明日開店として・・・もう少しなんか作っておこうかな。という事で鉄と鉄鋼の量産品を幾つか作った。それと受注にした防具もいくつか見本を作った。

さて明日は忙しくなる？かもしれないのでとっとと寝ます、お休み  
zzzzzzzz

第07話 開店に向けて（後書き）

仕事が忙しく投稿が不定期になります。

お金の単位以外は日本式で行きます。

ごちゃ混ぜになるかもですが温かい目で見てください。

## 第08話 開店とお客

さて皆さんとうとうこの日がやってきました、開店の日です！  
いやーめでたいですね、一杯きてくれるといいですねー、まあこんな外れの店にこないでしょうけど……。そんな悲観するなっつて、いえいえ期待していて来ない時の方がショックは大きいのです。

そんなことは置いといて、準備をしましょう。

量産品は武器種・素材 ごとに分けて、属性・特殊武器はちよつと見栄えるように採取の時に拾ったグロア木で刀台（刀を飾る台）を作ってみました。ちょっと高級感があるように見えますね。少ししかない道具類も手の取りやすい店の前に商品台を作り設置し、レーションなどを並べた。

まあこれでいいかな。

時間がまだ少しあるので攻撃アイテムを作る事にしました。参考にする物は火薬玉です、これの威力と効果範囲を上げたものを考えられています。……。そういえば前にいい物を拾ってたっけ、倉庫の中をゴソゴソと探しているとあったあった【魔流石・水】（まりゆうせき）、これを利用しようと思います。まあ火薬玉の火薬を【魔流石・水】（まりゆうせき）に変えるだけなんだけどね。

とりあえずそれでやってみよう！



『鑑定』  
【造形魔法・魔道具作成】  
クリエイション

【魔法玉・水】  
まほうだま

《説明》【魔流石・水】（まりゆうせき）を砕いた物を魔法紙で包んだ物、魔力を少し加えると5秒後に発動する

《効果》中心から直径2m範囲内を水属性ダメージ、約30秒持続する

こんな感じになるのか次は・・・

大きさは火薬玉と同じぐらいで・導火線に火を付けると爆発じゃなくて、その物に魔力を少し流すと数秒後に爆発するようにして・効果範囲はもう少し広いぐらいで・効果は範囲内を水矢が飛ぶ・・・  
・こんなんでいいかな？

【造形・魔道具作成】  
クリエイション  
アレイション  
【特殊能力付与】  
『鑑定』

【魔力玉・水（改）】  
まりよくたま

《説明》自身の魔力を形成して属性効果を付与した物、魔力を少し加えると5秒後に発動する

《効果》中心から直径3m範囲内を無数の水矢が飛ぶ、約1分持続する

自分能力だけで作った方がいいという罨w まあ劣化版でこと安めに売ればいいかな。劣化版は250KR・改は300KRぐらいでいいか、緊急時とかは重宝しそудし。

そんな事をやっているのと表の方から声が聞こえてきました。

「すいませ〜ん！」

「はいはい〜お待たせしてすみません、何か御用でしょうか？」

声を掛けてくれたのはたぶん冒険者であろう男性・女性の2人組みでした。男性は虎の獣族、女性は猫の獣族のようです。2人を見ていると猫族のお姉さんが……

「前は何もなかったはずだけど、店やってるの？」

「はい、今日開店したばかりで」

「じゃちょっと見せてもらっね」

「開店したばかりで品数少ないですがどうぞゆっくり見て行ってください、聞きたい事あれば声掛けてください」

2人は少し驚いたような顔をしていた。

「どうかしましたか？」

虎族のお兄さんが……

「いや、人族にそんな対応されたのは初めてだったからな。大抵の人族は獣族を見下した言い方をするからな。だから驚いたんだよ」

「そうなんですか、俺はこれが普通なので」

「そうか、でちょっと聞きたいんだがこれらは他の店より高くないか？」

量産品の鉄シリーズの長斧 (1600KR) を持ちながら言うている。

「確かに他の店より高いですが理由があります」

2人の獣族が聞いてきた

「「どんな理由？」」

「2つあって、まず1つはうちで扱っているのは鑄造式でなく鍛造式で作っている点」

「「どう違うの？」」

「鑄造式は溶かした金属を型に流し込んで作る仕方、鍛造式はハンマーなんかで金属を叩いて形を作る仕方、後者のほうが強い物を作るんですよ、その分大変ですけどね。」

「「へー、そうなんだ。」」

「2つ目はうちの武具は全てに何かしらの付与魔法が掛けてある点だね」

「「付与魔法！」」

「その鉄シリーズだと丈夫にするために『硬化』を掛けています、ちよつとやそつとでは刃こぼれしないですね」

「そんな理由でちよつと高めなんですよ、使い勝手は保障しますよー」

「なるほどねー、であつちに飾ってあるのはどんなの？」

と、猫族のお姉さんが聞いてきた。

「あれ今うちにあるので一番の物で、素材は鉄鋼・武器ごとに違う属性付与（大剣が火・細剣水・長剣が土・短剣が風）・特殊能力付与を施しています」

「……………すごいね、王都でもそこまでのほとんど見かけないよ」

「ねえ、あの短剣なんだけど手に取って見ていい？」

「いいですよ、ちよつと待ってくださいね」

そついいながら刀台から取り猫族のお姉さんに渡した。

受け取り黒い鞘から抜くと30cmほどの薄緑色の刀身が姿を現した、その時に「綺麗」と言う声をが聞こえたように思った。

「どうですか？」

話しかけてもポクとしていて反応が無く、短剣に心を奪われていたのか声が届なかった。

「それ試してみますか？ともう一度声を掛けると反応してくれた」

「え？」

「横の庭に案山子君（試し斬り）出来るようになっていたので、  
こっちにごつぞ」

「店は平気？」

「大丈夫ですよ、商品を持っては出れない様に結界を掛けているので」

そう言いながら横の庭に来た

「あの案山子君で試してみてください、人や魔物を斬った時と同

じよつに調整しているので」

それを聞く猫族のお姉さんは短剣で感触を確かめるように色んな角度から何度も斬ったり突いたり試していた。案山子君はポロポロになっていました。

「使い勝手はどうですか？それと風の刃をイメージしてみてください  
い」

するとイメージしだして少しすると彼女の前に風が渦巻いているのが見え出した。

「それを案山子君に飛ばしてみてください」

渦巻いていた風が案山子君に当たるとバラバラにちらばった。

「すごい！これ幾らですか？」

「短剣なんで28000KRになります」

「っう．．．やっぱり結構するね、他で買おうとしたらもっとしそっただけど」

うーんうーん悩んでいる彼女の向うで虎族のお兄さんは鋼の長斧を試していました。

「長斧は幾ら？」

「素材が鉄で1500KR、鋼で2000KRです」

「鋼の長斧貰えるかな」

「はい、有難うございます」

「それと買ってから1回目の砥ぎは無料です、2回目から素材・武器種に応じた料金を頂くので1回目は是非うちにお持ちください」

「分かった、その時は頼むよ」

「それとおい、ミレアどうするんだ？」

なかなか決める事ができないミレアにイラついたのか大きな声を出した。

「ダーク五月蠅い！今考えてるから少し黙ってて」



・ ・ ・ ・ ・

何分待っただろうか．．．．すると

「よし、買った!」

「ミレアいいのか?しばらく何も買えないぞ」

「いいの、これに魅せられちゃったから。はい28000KRね」

「はい、有難うございます」

「これはサービスですよかったら使ってください」

言いながら魔法玉・水(劣化)を5個ほどあげた。

「火薬玉ご存知ですか?」

「うん」

「それを元に俺が考えた魔法玉って言います。使い方は玉に直接

魔力を少し流して投げるだけです、5秒後に発動します、中心から直径2mに効果があるので注意してくださいね。」

「へー、貰っておくねありがとう。」

「いえ、よかったらまた寄ってくださいね。」

・ ・ ・ ・ ・

この後は誰も来ず初日は寂しく来店2名でしたが久しぶりにのんびり過ごせた良い1日でした。

少しづつお客が増える事を思い就寝です。お休みなさい . . . . .

・  
z  
z  
z  
z  
z

第08話 開店とお客（後書き）

どうにか更新できた・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3200z/>

---

異邦のよろず屋さん

2012年1月15日00時20分発行